

科目名	人間論A(人文・社会科学)
単位数	2.0
担当者	准教授 柿木伸之
履修時期	前期
履修対象	博士前期課程在学者
概要	人間とは何か。この問いは古代ギリシア以来、ヨーロッパの思想史において中心的な問題の一つであり続けてきました。また、ルネサンスにおける「人間」の再発見以来、「人間らしさ」の実現は、文明の発展の目標とされてきました。しかし、今日人間とは何かと問う際に、文明の発展史において想定されてきた「人間」像が、歴史的に作られたものであることを、さらにその歴史が、「人間らしさ」とされてきたものを破壊し、人間自身の生命を根幹から脅かすに至ったことを、けっして忘れることはできません。今や「人間」は、それを想定することの可能性を含めて、根底から問いただされるべき概念と化しています。本講義では、こうした現代の問題意識を踏まえつつ、ヨーロッパの思想史のなかで「人間」がどのように捉えられてきたかを検討することをうじて、今人間とは何かを問う糸口を探っていきます。
科目の到達目標	人間とは何かとみずから問い、それをつうじておのおのの専門的な営為の位置と意義を見つめ直す、思考の契機と素材を得ることが、本講義の目標とします。
受講要件	日常生活の前提を掘り崩すことを怖れることなくみずから徹底的に問い、考えることに面白さを覚え、講義のなかに答えではなく、自分の問いを見いだそうとする姿勢が、受講の要件です。
事前・事後学修の内容	各回の講義の後で、内容を振り返るとともに、紹介された文献を手にとって問題意識を深めることが求められます。それを前提に成績評価を行いません。
講義内容	以下の流れを予定しています。受講者と相談のうえ、内容などを変更することもあります。 第1回: イントロダクション——人間、この問われるもの(ブリーモ・レーヴィ、石原吉郎) 第2回: 死すべき者としての人間(古代ギリシアの人間観) 第3回: ログスを持つ動物としての人間(アリストテレスとストア派の人間論) 第4回: 神の似像としての人間(キリスト教思想の人間論) 第5回: 人間らしさの発見(ルネサンスの人文主義) 第6回: 知性にして機械としての人間(啓蒙主義の人間論) 第7回: 自律としての人間性(カントの人間論) 第8回: 歴史において自由を実現する人間(ヘーゲルとマルクスの人間論) 第9回: 神なき世界の人間(ニーチェの人間論) 第10回: 作る人、遊ぶ人、描く人(ホイジンガ、ヨーナスらの人間論) 第11回: 哲学的人間学の展開(シェーラー、ゲーレンらの人間学) 第12回: ヒューマニズムとその先(サルトル、ハイデガーの人間論) 第13回: 活動する人間(アーレントの『人間の条件』) 第14回: 「人間の終焉」の後に(フーコー、レヴィナス、アガンベンらの人間論) 第15回: まとめ
評価方法	講義への参加度(50%)と文献研究の成果(50%)を総合して評価します。講義への参加度は、基本的には各回の講義で考えたことをひと言記すコメントの内容にもとづいて評価することにしますが、受講者数などに応じて別の方法の導入も検討します。文献研究として、講義で紹介した参考文献のうち一冊についての2000字以上の書評を課します。これは学期末に提出していただきます。
教科書等	教科書は使いません。参考文献を講義のなかで随時紹介します。
担当者プロフィール	20世紀のドイツ語圏を中心に、近・現代の哲学と美学を研究しています。『ベンヤミンの言語哲学——翻訳としての言語、想起からの歴史』(平凡社)、『パット・ゲットツェシマッタ後の世界へ——ヒロシマを想起する思考』(インパクト出版会)などの著書があります。
備考	

科目名	人間論B(自然科学)
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 戸田山 和久
履修時期	前期(集中講義)
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	人間の大きな特徴は「心」をもっていることだと言われてきました。一方で、人間は動物であり、さらに究極的には物質にすぎません。こうした唯物論的な見方に立った上で、人間の心をどのように捉えていけばよいのか、心の科学と心の哲学の交差する領域の問題を考えていきます。
科目の到達目標	心の科学と哲学の基本的問題に入門する。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	先入見を捨てて、頭を柔らかくして、いろいろな考え方につきあってみてください。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の哲学の課題 2. 心身問題とその展開 3. 現代版心身問題 4. モノだけの自然観から心を追い出す試み 哲学的行動主義 5. モノだけの自然観に心を埋め込む試み 心脳同一説 6. 心脳同一説の問題点 多重実現可能性 7. コンピュータとしての心-機能主義的な心の見方 8. 機能主義の展開 古典的計算主義と認知科学 9. 古典的計算主義への批判 コネクショニズムの見方 10. 機能主義では扱えない心の特質(1) クオリア 11. 機能主義では扱えない心の特質(2) チューリングテストと中国語の部屋の思考実験 12. 機能主義では扱えない心の特質(3) 志向性と意味 13. 「意味」をどう自然化するか 目的論的機能主義 14. Biosemantics 15. まとめ
評価方法	レポート
教科書等	特になし
担当者プロフィール	名古屋大学大学院情報科学研究科教授 科学哲学者です。よかったら、拙著『科学哲学の冒険』(NHKブックス)を読んでみてください。私が何を考えているのかが書いてあります。
備考	

科目名	国際関係と平和
単位数	2.0
担当者	広島平和研究所 所長 吉川 元
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	20世紀を通して今日に至るまでの、国際平和観および安全保障観の変遷と転換について講義いたします。戦争は無条件に否定されねばなりません。だからといって戦争なき平和は無条件に肯定することはできないと思います。平和はそのあり方で人間の安全を脅かすことになります。戦争の犠牲者数が平時の権力者による民衆殺戮の犠牲者数を上回っている事実は、平和が必ずしも人間の安全を保障するとは限らないことを物語っています。なぜ平和な時代に民衆が殺戮の対象になったのか。こうした疑問の上に、20世紀の戦争と平和、および安全保障の概念の変容について考察し、国際平和と人間の安全の双方の実現を目指す平和創造の方法について検討いたします。
科目の到達目標	国際平和の仕組みと戦争の原因を学び、人間の安全を脅かす国際政治の秩序と国際関係法の関連性を明らかにする。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定部分を熟読の上、講義に臨むこと。レポートの作成に際しては講義内容を踏まえて執筆に当たること。
講義内容	テキストの『国際平和とは何か——人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』に基づき、第1章から7章まで、各章を2回に分けて講義する。 はじめに 1.序章—平和とは何か、戦争とは何か 2.国際平和と民族問題 3.脆き平和 4.「平和共存」平和と人民の戦争 5.人間の安全を脅かす国際平和秩序 6.「新戦争」とアイデンティティ政治 7.安全保障共同体の創造に向けて
評価方法	平常点40%、レポート60%。
教科書等	教科書：吉川 元『国際平和とは何か——人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中央論新社、2015年 参考文献：吉川 元『国際安全保障論』有斐閣、2007年；吉川他編、『グローバル・ガバナンス論』法律文化社2013年。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	日本論
単位数	2.0
担当者	佐藤深雪
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	20世紀初頭に、夏目漱石は、自己本位と則天去私にもとづいた個人主義によって独自の立脚点を得た。ヘンリー・ジェームズにおけるヨーロッパとアメリカの関係と対比しながら、漱石の「私の個人主義」と「現代日本の開化」を中心に考察する。
科目の到達目標	20世紀初頭の世界史的な文脈の中で日本文化を考える
受講要件	20世紀の日本について関心をもっている学生、夏目漱石を読みたいと考えている学生。
事前・事後学修の内容	講義にもとづいて、学期末に、漱石の作品一つを取り上げたレポートを作成する。2000字程度。
講義内容	第1回 夏目漱石入門 第2回 自己本位と則天去私 第3回 「明暗」と自由間接話法 第4回 「彼岸過迄」と粹物語 第5回 「現代日本の開化」「私の個人主義」 第6回 「夢十夜」とウィリアム・ジェームズ 第7回 作田啓一『個人主義の運命』 第8回 「坊っちゃん」と山姥 第9回 「門」 第10回 「それから」 第11回 映画「それから」を見る。 第12回 「道草」 第13回 「こころ」 第14回 「こころ」 第15回 まとめ
評価方法	2000字程度の学期末レポートと受講態度
教科書等	漱石の作品は青空文庫に収録されていますが、紙媒体が望ましい。
担当者プロフィール	日本文学・日本文化が専門領域である。人間がさまざまな形式を通して文化に参加する様態について、おもに物語形式を中心に考察している。
備考	

科目名	科学技術と倫理
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 石田 三千雄
履修時期	前期（集中講義）
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	科学倫理や技術倫理、科学者・技術者の責任、技術の文明論的考察、生命操作技術の倫理や生命倫理学の倫理性、科学技術と公共性、市民の関与、技術倫理の課題、技術者倫理教育の現状などを論じる。授業は講義形式で行う。
科目の到達目標	受講生は、科学技術が人間本性や社会のあり方に根ざすことを理解し、市民として科学技術の望ましい推進について判断できる視点を身に付ける。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	日頃から新聞などで科学技術が社会に及ぼす影響や事件などについて関心をもつ。
講義内容	1.はじめにー授業全体の説明 2.科学技術の基盤 3.科学倫理とは何か 4.技術倫理とは何か 5.人間と技術 6.現代文明と技術 7.近代合理性と近代社会 8.近代科学技術の社会的基盤 9.生命倫理の倫理性 10.科学的認識の倫理性 11.科学技術者と市民 12.科学技術と合意形成 13.技術倫理が問われる現場 14.技術者倫理教育の現状と課題 15.まとめ(最終回に試験を行う。)
評価方法	授業への取り組み状況、授業の最後の試験で評価する。
教科書等	参考書:石田他『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版、2007年。 必要に応じて資料を配付する。
担当者プロフィール	徳島大学総合科学部教授。フッサール現象学から、科学技術論や自然倫理学まで研究しています。
備考	上記の参考書を参照してもらえば、講義内容が明確になります。

科目名	情報と社会
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 橘 啓八郎
履修時期	前期(集中講義)
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	私たちが生活している社会は情報化社会、電子社会等と呼ばれて久しい。現状では情報化、ITと称されている電子技術、情報通信技術によるコンピュータおよびそれらと結び合うネットワークシステムが重要な社会基盤と考えられ、それらの発展により私たちの生活や社会情勢が大きく変化しつつある。本講義では経済、法制度、倫理、文化、国際関係等が情報関連技術の発展により、どのような問題が生じるか、今後どのように対処すればよいかを検討する。このため、講義のみならず、関連する分野の課題発表も各自に行っていただく。
科目の到達目標	情報化の将来像のみならず、どのような社会像が、如何なる理念の下にデザインすれば良いのか、現状での分析とその問題点も含め考察してもらいたい。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	主体的に課題に取り組み調査等により、独創性のある考察と提案を行ってほしい。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体の講義内容の概説 2. 社会に対する情報化の影響(1) 3. 社会に対する情報化の影響(2) 4. 課題についての報告と討論 5. 市場経済と情報化(1) 6. 市場経済と情報化(2) 7. 課題についての報告と討論 8. 法制度と情報化(1) 9. 法制度と情報化(2) 10. 課題についての報告と討論 11. 政策と情報化 12. 倫理と情報化 13. 課題についての報告と討論 14. 情報技術の将来 15. 今後の課題への対応とまとめ
評価方法	日常点(小テスト等) 50% レポート(課題の達成度で評価) 50%
教科書等	使用しない
担当者プロフィール	広島市立大学名誉教授 大阪学院大学名誉教授
備考	特になし

科目名	道具論
単位数	2.0
担当者	教授 及川 久男 ほか
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	【授業形態:講義】 広島から、道具がどのような存在であるかを論ずる。道具存在論、道具が開く文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場に於ける道具のありようの見方を論ずる。
科目の到達目標	人間が生きていく為に、周囲の世界と交わした対話、それが道具である。人間とともに新しい、この道具世界に、いかに対座するかを追求する。 『もの』と人間の精神復興を願い、身の回りの品々をあらためて再考し、生活革新への指針を示す。
受講要件	それぞれのテーマごとにその道に造詣の深い専門の講師によりオムニバス形式で授業が行われるので、すべての授業に出席することを特に要望する。 外部講師を招いての講義が多く、講師に失礼にならないよう、私語や毎回の著しい遅刻など受講態度の悪い学生は受講を許可しないことがある。
事前・事後学修の内容	栄久庵憲司の著書「道具論」等、出版物を後期中に読むこと。
講義内容	1 導入 道具論の著者栄久庵憲司と広島 2 広島県伝統的工芸品(大竹手打刃物)と安芸十利(針)(苅山信行) 3 安芸十利の一つである鑢(やすり)について学ぶ。(苅山信行) 4 道具と都市Ⅰ 一道具の命(都市の視座から道具を考える)(大井健次) 5 道具と都市Ⅱ 一道具の創出(都市の視座から道具を考える)(大井健次) 6 衰退する道具一言霊と文字の象徴・はんこ(服部等作) 7 持続する道具一玉座という王権の空間装置(服部等作) 8 茶道上田宗箇流 茶の湯の心(上田宋岡) 9 身体と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ。Ⅰ(前田育男) 10 身体と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ。Ⅱ(前田育男) 11 生命の誕生と道具の誕生。「自然と不自然」の相関を考察する。(山田晃三) 12 文明の進展と道具の関わり。「日本の戦後史」から考察する。(山田晃三) 13 熊野書筆(村田隆志) 14 熊野化粧筆(村田隆志) 15 まとめ(提出課題説明等)
評価方法	①授業の理解度を測るため毎回レポートを提出。 ②期末テーマを与えレポートを提出 ①と②の総合評価とする。 S(秀)レポートで90点以上 場合。 A(優)レポートで80点以上 場合。 B(良)レポートで70点以上 場合。 C(可)レポートで60点以上 場合。 D(不可)レポートで60点未満 場合。
教科書等	なし
担当者プロフィール	大井健次(広島市立大学)名誉教授 服部等作(広島市立大学)名誉教授 上田宋岡 茶道上田宗箇流十六代目家元 山田晃三 GKデザイン機構 代表取締役 社長 前田育男 マツダ株式会社 執行役員 デザイン本部長 村田隆志 大阪国際大学 苅山信行 元広島県立西部工業技術センター
備考	

科目名	都市論
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 杉本俊多, 非常勤講師 水田 丞, 非常勤講師 千代章一郎, 非常勤講師 森本真, ほか 責任者(吉田幸弘)
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきた。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促している。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に広げて、世界に知られる都市広島においてこそ論じなければならない、21世紀の都市像とそのデザイン方法について実践事例や現地見学を含めて講じる。
科目の到達目標	建築デザイン、都市デザイン、まちづくりの観点から、都市の解釈方法、デザイン方法を理解する。都市空間の構成について理解し、将来の都市デザインに向けて、ポキャブラリーや思考方法を習得する。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	各講師の指示・推薦する文献等を読み、講義内容と合わせて理解・思考を深めること。
講義内容	第1回 吉田 イントロダクション・広島のみちづくり1 第2回 吉田 広島のみちづくり2・現地講義 第3回 杉本 広島都市空間形成史 第4回 杉本 近代広島都市空間 第5回 千代 ル・コルビュジエの都市論 1 第6回 千代 ル・コルビュジエの都市論 2 第7回 水田 現代都市・建築空間 1 第8回 水田 現代都市・建築空間 2 第9回 吉田 広島建築 1 第10回 吉田 広島建築 2 第11回 森本 他都市圏の建築・エクステリア 第12回 森本 他都市圏の建築・エクステリア 第13回 杉本 ベルリンの都市空間形成史 第14回 杉本 ベルリンに見る現代都市空間デザインの課題 第15回 吉田 まとめ
評価方法	講義終了後、レポートにより評価。
教科書等	講義形式: パワーポイントまたはキーノートを用いて講義。 テキスト、参考資料は各担当講師が指示ないし配布する。
担当者プロフィール	杉本俊多(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門教授 建築史・意匠学) 水田 丞(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門助教 日本近代建築史) 千代章一郎(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門准教授 建築史・意匠学) 森本真(武庫川女子大 准教授) 吉田幸弘(立体造形 教授)
備考	一部広島市立大学サテライトキャンパスでの授業があります。